

年間授業計画

高等学校 令和6年度（3 学年用） 教科 家庭 科目 保育基礎

教 科： 家庭 科 目： 保育基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 実教出版 保育基礎 ）

教科 家庭 の目標：

【知 識 及 び 技 能】基礎的なことについて理解しているとともにそれらによる技能を身につけている

【思考力、判断力、表現力等】生活の中から問題を見出し 課題を設定し 課題を解決する 力を身につけている

【学びに向かう力、人間性等】 共同し 自分や家庭 地域の生活の充実 向上を図るために実践しようとする

科目 保育基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1 章 子どもの保育 1 節 保育の意義 1 保育とは 2 保育の意義 ・保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気を付けていけばよいかなど、考察ができる。 2 節 保育の方法 1 保育者の役割とは 2 一人ひとりに合わせた指導 発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。 3 節 保育の環境 1 家庭での保育 2 幼児教育・保育の場 3 子どもが育つ環境の変化と課題 ・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。	・指導事項 ・保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ・保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。 ・家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解する。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。 人間の発達に関心を持ち 乳幼児期が 人間の発達の 基礎を 培う 時期であることを理解する 乳幼児期は親を中心とした 身近な人との関わりにより心が安定し考え方感じ方行動の仕方などが発達していくことを理解する ・教材 教科書 補助資料 ・一人1 台端末の活用 等	【知識及び技能】 乳幼児期は心やからだの基礎を築く大切な時期であることを十分に理解している。 保育者に求められる役割や関わり方のポイントを十分理解している。 子どもや家庭をとりまく保育環境やその課題について十分理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 教科書p.11Workで遊びを通じた子どものころの振り返りを通して、子どもがどういったことを身につけていくかなど、乳幼児期の体験の重要性に気づくことができる。 保育者としての子どもとの適切な関わり方について考察することができる。 保育環境やその課題について、社会的背景などと関連づけて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組んでいる。 小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	6
	2 章 子どもの発達 1 節 子どもの発達特性 1 発達と保育 2 発達の共通性と個性 ・胎児の生育環境である母体に対する関心と課題意識を高めている。乳幼児の身体的特徴と生理的特徴及びその変化に関する知識を身につけている。 2 節 子どものかからだの発達 1 発育・発達の評価 2 身体的特徴 3 生理的特徴 ・誕生から幼児期までの子どもの身体発育、運動機能、認知機能などそれぞれの発達の特性について理解している。 3 節 子ども心の発達 1 社会・情緒的な発達 2 知的発達 3 言葉の発達 ・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。 特集 月齢、年齢別の発育・発達 ・誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。	・指導事項 ・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。 ・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ・誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。 乳幼児の生活の特徴学び健康を保持増進し順調な成長を促す上で発育発達に応じた養護が必要なことを理解する 乳幼児期は、人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。子どもを取り巻く社会環境への変化や今後の保育への課題について理解し、子どものすこやかな発達のために適切な保育環境について考察する。 乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係の広がりについて考える。 ・教材	【知識及び技能】 子どもの発達は、運動や感覚、心の発達などが関連し合っており、その特性について十分理解している。 子どもの身体の発達過程や生理的特徴について十分理解している。 乳幼児期の愛着関係の形成は人の発達にとってとても重要であることを十分理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 愛着関係形成のための大人の適切な関わり方について考察ができている 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組んでいる。 小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	18

	3章 子どもの生活 1節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活 ・子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている。 ・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。 2節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的生活習慣 3 社会的生活習慣 ・子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 3節 健康管理と事故防止 1 子どもの健康管理 2 事故の防止と応急処置 ・子どもの健康状態を見るときのポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。 ・子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。	・指導事項 ・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ・乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を実習を通して理解する。 ・子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 ・子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ・子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。 ・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 子どもの安全で健康的な食生活、衣生活に関する知識や技術を身につけている。基本的生活習慣と社会的生活習慣の形成のための適切な支援について十分理解している。子どもの健康管理と事故防止に対する基礎的な知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの食生活や衣生活などの特徴についてまとめることができる。 子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法を考察することができる。 子どもの健康管理と事故についてその予防策や注意点を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 離乳食や幼児食、おむつ交換などの実習について子どもの発達の状況などと関連づけて考え実践することができる。 子どもの発達に即した適切な習慣形成の働きかけが保育実習などの場で実践しようとしている。 子どもの事故の実態や原因を踏まえて事故防止や安全教育に結びつけて実践しようとしている。 授業に積極的に取り組んでいる。 小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
2学期	3章 子どもの生活 1節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活 ・子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている。 ・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。 2節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的生活習慣 3 社会的生活習慣 ・子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 3節 健康管理と事故防止 1 子どもの健康管理 2 事故の防止と応急処置 ・子どもの健康状態を見るときのポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。 ・子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。	・指導事項 ・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ・乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を実習を通して理解する。 ・子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 ・子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ・子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。 乳幼児の生活の特徴を学び健康を保持増進し順調な成長を促す上で発育発達に応じた養護が必要なことを理解する 乳幼児は遊びを通して発育発達することを理解し保育者が発達に合わせて遊びを働きかけることの大切さを学ぶ 基本的な生活習慣を身につけるためには家族や保育者の援助が必要であることを学ぶ。社会的生活習慣は社会のルールや人との関わりの中で身に付いていくことを理解する。日常の健康状態の観察など乳幼児の健康守ための保育者の役割を理解する。 ・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 子どもの安全で健康的な食生活、衣生活に関する知識や技術を身につけている。基本的生活習慣と社会的生活習慣の形成のための適切な支援について十分理解している。子どもの健康管理と事故防止に対する基礎的な知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの食生活や衣生活などの特徴についてまとめることができる。 子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法を考察することができる。 子どもの健康管理と事故についてその予防策や注意点を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 離乳食や幼児食、おむつ交換などの実習について子どもの発達の状況などと関連づけて考え実践することができる。 子どもの発達に即した適切な習慣形成の働きかけが保育実習などの場で実践しようとしている。 子どもの事故の実態や原因を踏まえて事故防止や安全教育に結びつけて実践しようとしている。 授業に積極的に取り組んでいる。 小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	10

3 学 期	4章 子どもの文化 1節 子どもの文化の意義と支える場 1 子どもの文化 2 子どもの文化を支える場 子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。 2節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動” ・遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。 ・子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊び等の作成に取り組む、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。 □	・指導事項 ・絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。 ”・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。” 絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える立場が、子供の健やかな発達とどのようななかかわりを持つか、その意義について考える。 遊びにおける保育者からの働きかけを」考え、遊びの援助ができるようにする。実際にこどもとふれあう機会や保育の様子の観察などを通じて、子どものものの見方や感じ方、子どもと適切ななかかわりかたなど、保育への理解を深める。 ・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 児童文化活動、児童文化財、児童文化施設など子どもの文化を支える場やその意義について十分理解している。 遊びの意義や発達との関わり、遊具の選び方などについて十分理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 教科書p.111Workの自分の子どものころの遊びの振り返りについて、周りの人と話し合いながら遊びへの理解を深めている。 子どもの遊び実習に向けて、必要な準備や関わり方の工夫などについて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもの遊び実習（絵本や歌など）について、子どもの年齢や発達に応じた遊び方や工夫を主体的に考えて実践することができる。 授業に積極的に取り組んでいる。 小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	5章 子どもの福祉 1節 子ども観 1 子ども観の変遷 2 権利の主体としての子どもへ 2節 子どもの福祉 1 児童福祉 2 子どもをとりまく課題と対策 3 子どもが育つ社会環境” 3節 子育て支援 1 子育て支援からパートナーシップへ 2 社会的養護 3 地域の子育て支援	指導項目・内容 ・子ども観の変遷や、権利の主体として尊重されつつある状況を理解している。 ・児童福祉の基本的な考え方について理解し、子どもの幸福について自分の意見や考えをまとめることができる。 ”・児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べている。 ・子育ての現状をふまえて、これからの子育て支援を考えている。 児童福祉の理念や法律制度について学び単に保育するのみではなく時代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解する 児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び児童と家庭に対する社会的援助についての理解する 児童を取り巻く環境の変化や子育て支援の現状を知り 子育て家庭に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解する 子育て支援の課題と展望を考える ・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 児童館の変遷について、社会的背景や西欧と日本の比較などを通じて十分理解している。 児童憲章や子どもの権利条約など児童福祉の基本的な考え方について十分理解している。 子どもの福祉を支える公的機関や施設の役割について十分理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの福祉の課題を見つけ、その解決に向けて考察することができる。 児童虐待の現状や課題について自分の考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に積極的に取り組んでいる。 小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
						合計	70